



父母と学ぶ会だより

NO. 27 研修報告号～H28年2月発行

施設内研修会報告

H27年11月30日(月) 発表者 溝口諒 鈴木美由起

「チームワーク」をテーマに施設内研修が行われました。

KJ法を使って「ゆいまあるはどんな施設か？」を考えてもらいました。



KJ法とは？

ブレインストーミング法で蓄積された情報から必要な物を取り出し、関連するものを繋ぎ合わせて整理し、統合する手法の一つです。カード(紙片)を活用するところに大きな特徴があり、内容や質がまちまちな情報をまとめ、全体を把握するのに有効な技法です。

ブレインストーミング法とは？

ブレインストーミングとは、集団でアイデアを出し合うことによって相互交錯の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法です。ブレインストーミングの過程では、次の4原則(ルール)を守ることとされています。①判断・結論を出さない(結論厳禁) ②粗野な考えを歓迎する(自由奔放) ③量を重視する(質より量) ④アイデアを結合し発展させる(結合改善)

(例)右の手順の番号を参考にしてください 用意するもの・・・カードや付箋など。できれば大きい画用紙

施設の特徴 ③

(グループのタイトル)

防災意識が高い ①

優しい シングルマザーに ①

休みが多い ①

②

(グループにまとめる)

手順として

- ①テーマ(今回は「ゆいまあるはどんな施設か?」のテーマで行いました。)を決め、関連すると思われる事実や意見を出来る限りカード(付箋など)に記録する。
- ②同じような内容のカード(付箋など)を分類し、集めていく。(なければ無理に分類しようとしない)
- ③カードのグループにタイトルをつける。

※この後、必要に応じて図解を文章化していきます。こうした作業の中からテーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していきます。

実施してみた感想

今回、KJ法を使って支援者の方々にゆいまあるについて思ったこと、感じたことをたくさん意見として出していただきました。ゆいまあるで過ごしていく上で支援者の方が何を感じているのかを知る機会になりました。同時に自分が日々の生活で気づかないような意見を出してくれる方もいて支援者間での共通理解を深めていくきっかけにもなったと思いました。(文責 溝口 諒)

施設内研修② 報告

H27年10月19日(月)

発表者 石川裕美 栗田百江

支援者の仕事はグループとして、組織としてといったチームで行うことが多いため、「グループワーク」をテーマに研修会を行いました。

今回はチーム力を高めるグループワークを実際に体験しました。

用意したもの

- ・アイマスク
- ・マトリョーシカ 一人一個 (何なのかは秘密にしています)

ルール

- 10分間でアイマスクをした状態でマトリョーシカを小さい順に並べます。
- ・触れるのは自分に配られたものだけです。
- ・アイマスクをしたままグループで話し合い決めていきます。



「何だろう?」「〇〇位の大きさかな?」皆で触ったものの大きさや形を考えました。

話し合いの結果見事に小さい順に並べることができました!



感想

- ・話し合うのが知り合いでないと相手の考えることが分からないし難しい。
- ・目が見えないと喋らないとわからない。
- ・視覚障害の人は言葉でコミュニケーションをとらないと人と関わりがとれない。コミュニケーションは大切。
- ・普段の生活がいかに視覚に頼っているかわかった。
- ・見えないために情報をしぼることの大切さを感じた。

グループワークは大成功!人と協力して行うことの大切さと難しさを改めて感じました。

(文責 栗田百江)

平成27年度

父母と学ぶ会研修会 第2回

市政出前講座「どうなる?これからの障害者支援」

H28年2月12日(金)

静岡市役所保健福祉局福祉部 障害者福祉課(自立支援係)の長田浩伸さんを講師に招いて「どうなる?これからの障害者支援」についての研修会を行いました。

- ・「第4期静岡市障がい福祉計画」についての説明
- ・「静岡市障がい者計画」について
- ・「障害福祉サービスの障害児通所支援」についての説明がありました。

質疑応答ではやはり将来のことが気になる保護者が多く、成年後見制度やグループホームについての質問がありました。施設長からは近いうちに(平成30年度から)給食加算が無くなりそうだと話があった。給食を楽しみにしている利用者は多く、配膳などを自分で行うことや挨拶の習慣・マナーを守ることなど給食の時間は社会性を育てる場でもあるため、なくならないようにしてほしいと静岡市へ要望がありました。

(文責 栗田百江)